

第34回関西障がい学生支援担当者懇談会（2025年3月6日開催）

【アンケート集計結果】

1～4はKSSK開催前の申込時にアンケートを実施（出席人数73名※うち分科会出席者73名）、5～10はKSSK開催後にアンケートを実施（回答人数43名※回収率58.9%）

1-1 所属大学

大学コンソーシアム京都加盟大学

大学名	人数
京都大学	1
京都工芸繊維大学	1
京都市立芸術大学	1
大谷大学	4
京都外国語大学・京都外国語短期大学	2
京都華頂大学・華頂短期大学	4
京都芸術大学	1
京都産業大学	2
京都女子大学	1
京都精華大学	2
京都先端科学大学	3
京都橘大学	3
京都ノートルダム女子大学	1
京都文教大学	1
同志社大学	5
同志社女子大学	1
佛教大学	1
平安女学院大学	1
立命館大学	2
合計	37

大学コンソーシアム京都非加盟大学

大学名	人数
長浜バイオ大学	1
大阪大学	1
大阪公立大学	3
大阪大谷大学	2
大阪観光大学	1
大阪経済大学	2
大阪産業大学	1
大阪千代田短期大学	2
大阪電気通信大学	1
四天王寺大学	1
摂南大学	1
阪南大学	1
桃山学院大学・桃山学院教育大学	5
森ノ宮医療大学	1
大手前大学	1
関西学院大学	3
神戸学院大学	1
神戸女子大学・神戸女子短期大学	1
武庫川女子大学	2
奈良学園大学	1
和歌山大学	1
名古屋経済大学	1
清泉女学院大学	1
合計	35

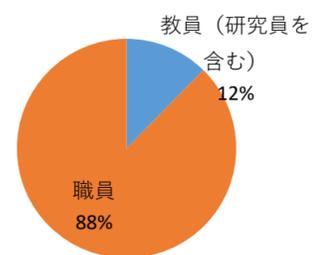
その他

その他	人数
私学経営アカデミー	1
合計	1

1-2 区分

No	選択肢	人数	%
1	教員（研究員を含む）	9	12.3
2	職員	64	87.7
合計		73	100.0

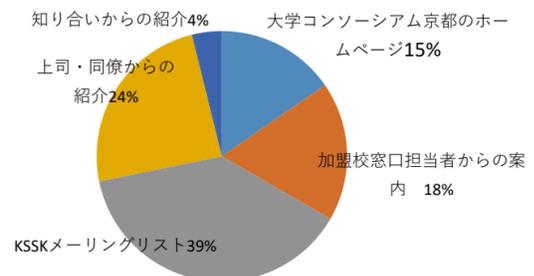
1-2 区分



2. 今回の講座をどこで（何で）知りましたか？（複数回答可）

No	選択肢	人数	%
1	大学コンソーシアム京都のホームページ	12	15.4
2	加盟校窓口担当者からの案内	14	17.9
3	KSSKメーリングリスト	30	38.5
4	上司・同僚からの紹介	19	24.4
5	知り合いからの紹介	3	3.8
6	その他	0	0.0
合計		78	100.0

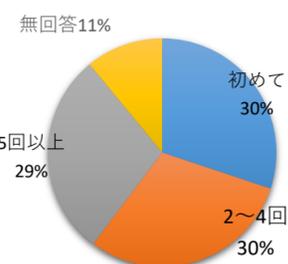
2. 今回の講座をどこで（何で）知りましたか？



3. KSSKは何回目の参加でしたか？

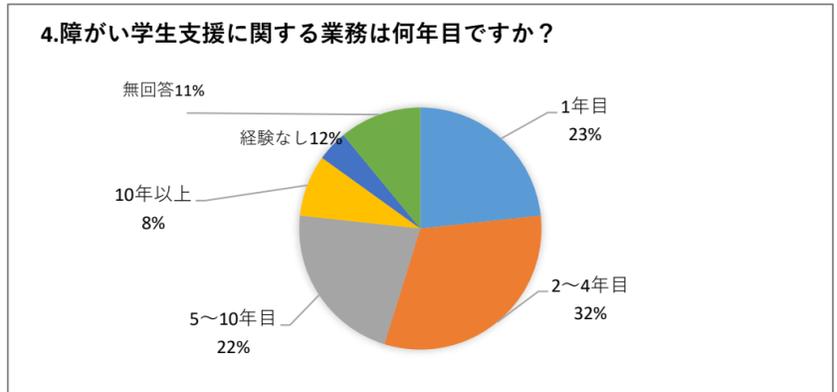
No	選択肢	人数	%
1	初めて	22	30.1
2	2～4回	22	30.1
3	5回以上	21	28.8
4	無回答	8	11.0
合計		73	100.0

3. KSSKは何回目の参加でしたか？



4. 障がい学生支援に関する業務経験は何年目ですか？

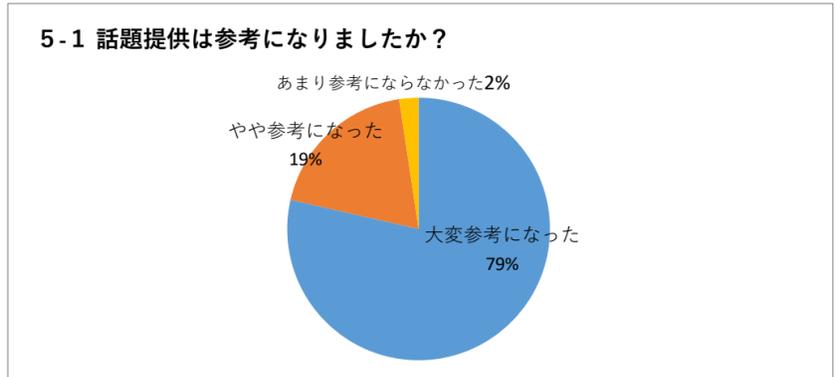
No	選択肢	人数	%
1	1年目	17	23.3
2	2～4年	23	31.5
3	5～10年未満	16	21.9
4	10年以上	6	8.2
5	経験なし	3	4.1
6	無回答	8	11.0
合計		73	100.0



5. 話題提供について

5-1 話題提供は参考になりましたか？

No	選択肢	人数	%
1	大変参考になった	33	78.6
2	やや参考になった	8	19.0
3	どちらでもない	0	0.0
4	あまり参考にならなかった	1	2.4
5	まったく参考にならなかった	0	0.0
合計		42	100.0



※1名が話題提供不参加のため、「参加していないと回答」

5-2 上記5-1の回答を選択された理由をご記入ください。（記述内容一部抜粋）

No	回答内容	理由
1	大變参考になった	参加者の皆様が日頃から障がい学生支援に携わっておられる方ばかりで勉強になった。
2	大變参考になった	他大学の支援体制や取り組みの詳細を知り、自大学の課題解決の参考になったため
3	大變参考になった	大谷大学さんの横断的な取り組みが、以前HEAPの研修で少し紹介されており、興味があった。それを詳しく知ることができたから。
4	大變参考になった	他大学の取組状況を知ることができた。
5	大變参考になった	大学の取り組みが良くわかった
6	大變参考になった	2024年4月に合理的配慮が私立大学も義務になり、現状をどのように変える必要があるのかが分からない部分が多かったが、とても参考になりました。
7	大變参考になった	自分が所属する大学での状況は、他大学と比較してどうなのかということは常に疑問のため、現状ならびにうまくいっている状況、うまくいっていない状況などを含め色々把握できることは良い。
8	大變参考になった	中小規模大学での障がい学生支援について知ることができたのはとてもためになりました。本学で取り入れるとしたら、を考えることができました。
9	大變参考になった	大谷大学での横断型の支援体制について、特定の部署や担当者に負担が集中しすぎることなく、また、学内に障がい学生支援に携わった経験のある教職員を増やしていくことができる非常に有益な取組だと感じた。
10	大變参考になった	ご発表を通して、本学に活用できるような学びをいただきました。大学の特色を踏まえて支援体制を整えておられることを知り、本学においても、特色に合わせた体制作りが必要であることを再認識しましたし、ご発表の中でお話いただいた内容ひとつひとつを本学の状況に落とし込み、本学であればと考えながらお話を聞かせていただきました。
11	大變参考になった	本学とは規模の違う他大学の支援体制、現状、課題を共有頂くことで、普段の業務では気付くことのできない気づき、学びがあったため。
12	大變参考になった	他大学の学内連携の様子や障がい学生支援室の様子を知ることができて、大變参考になりました。
13	大變参考になった	同じく小規模私大なので、組織体制含めて大變参考になった。
14	大變参考になった	障がい学生支援体制は、大学の規模、支援方針、人材配置などに規定されることを改めて認識できました。また申請対応のフローについても学科（教員）のかかわりについても重要と再認識できました。
15	大變参考になった	学部の学びの中の本質になるところはどこかということについて学生と話し合っ合意形成することが大切。授業のことなので、先生も入って面談するという話を述べておられて、合理的配慮申請のフローの連携と手順が綿密で参考になりました。
16	大變参考になった	他大学が、どのように障がい学生支援に取り組んでいるのか知ることができた
17	大變参考になった	他大学の状況を知ることができた。
18	大變参考になった	各大学における具体的な取り組み内容、組織構成が参考になったため

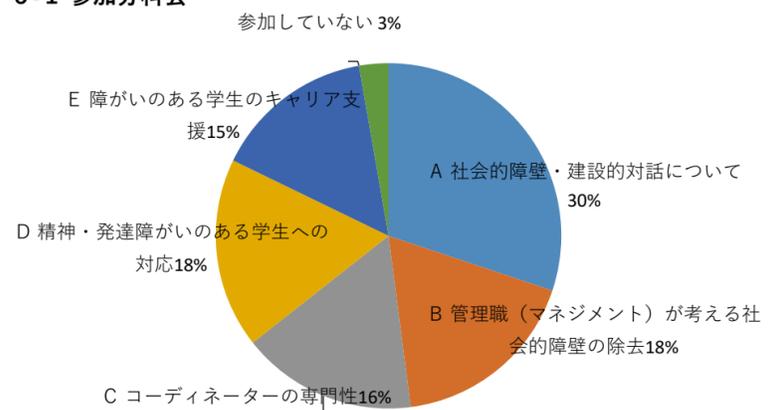
No	回答内容	理由
19	大変参考になった	大谷大学 鈴木さんの話題提供では、横断型支援チームを知り、就労移行支援等で各部署から「心配な学生」があがってくるというのが、大変参考になりました。本学では、学生相談室が障害学生支援を担っているため、学生相談室の関わっている範囲までしか学生の存在を把握できていません。もちろん、学生相談室に携わっている部署や職員、入試課、個別に関わりのある教職員とは連絡をとれ、支援につながりますが、網羅されているわけではありません。また、障がい学生の就職は個人に任せられたり、就職支援課がハローワークや就労移行支援施設を紹介している状態です。入学前面談、入学時にかけて障がい学生支援については周知をはかっていますが、「学生相談室や合理的配慮を最初から知っていればよかった」と言う2年生以上の学生もちらほら見かけます。情報提供いただいたことで、我が大学においては、全体での支援ネットワークの形成が今後の課題だと考えることができました。 京都精華大学寺尾さんの話題提供でも考えさせられるところがありました。本学では、合理的配慮に2週間程度かかると学生に説明しており、教務課の忙しさにもよりますが、早い場合は1週間程度で教員の手元に配慮依頼文書が届きます。精華大学のケースでは2ヵ月程度かかるとおっしゃっており、丁寧且つ慎重に実施されているのだと思いました。やはり、本来であればこのように、多くの関係者と関わりながら、どの程度の配慮が実際は可能等を綿密に検討する必要があるのだと思いました。本学は比較するとスピーディーですが、その分だけ教員に負担をかけているところもあるのではないかと、考えました。 他大学の支援状況を知ることで、自校がまだ手を付けられていない点や課題、そして気づいていなかった本学の特徴も浮き彫りになると感じることができ、非常に貴重な機会でした。
20	大変参考になった	他大学の障害学生支援の事例を知ることができ、大変参考になりました。
21	大変参考になった	本学では、機能分化や学内の理解の浸透に課題を感じております。今回、各部署に担当を置く取り組みや学内に理解を広げていくために支援室の事務職員を定期的に交代しているというお話もあり、大変興味深かったです。
22	大変参考になった	うまく横連携が取れている大学の実践が参考になりました。
23	大変参考になった	他大学の現状が大変参考になった。
24	大変参考になった	全体的に皆様の熱気と言いますか、話題の内容も豊富で、取り組みの実践も参考になり、この態度こそが合理的配慮を表しているようにも感じました。刺激をたくさんいただきました。
25	大変参考になった	各大学の取り組みについて情報交換ができたので有意義な時間となりました。
26	大変参考になった	小規模大学での組織構成やフローをお示しいただき、自分の勤務先も小規模大学なので取り入れられそうな点が多く、とても参考になりました。
27	大変参考になった	各大学の状況を具体的に知ることができたため
28	大変参考になった	大学規模によって支援体制の作り方、広まり方が異なると分かった。
29	大変参考になった	大学全体が、障がい学生支援を自分ごととして捉え、対応されていると感じました。
30	大変参考になった	大学に規模によって支援体制の違いや工夫点があり、大変参考になりました。チームで対応することにより全学的に体制を構築していくことができる点が素晴らしいと感じました。
31	大変参考になった	横断型チーム支援、特に就労移行支援プログラムでの各部署の連携に学内アルバイトを取り入れておられる点が興味深かったです。本学のパソコンテイクに発達の学生が数名おり、中には配慮申請を出し支援を受けているものもあります。テイク活動を通じて自己理解を深め、また少しでも社会経験につながればと考え日々接していますが、今回のお話を伺い、学内アルバイトの位置づけ、新たな側面について考えるきっかけになりました。
32	やや参考になった	着任後間もないので他大学のしくみが聞けたから
33	やや参考になった	他大学の取組は参考になったが、規模が違うので、本学に適用が難しいかなと感じた。
34	やや参考になった	他大学の取り組みや支援内容について具体的にご紹介いただき、支援の実践方法や工夫について理解を深めることができました。
35	やや参考になった	これまで他大学の詳細事例に触れたことがなかったので。
36	やや参考になった	優れた取り組みを行っている事例報告は、参考になりました。ありがとうございます。京都精華大学様の取り組みに関しまして、せっかく外国人留学生数の内訳のご説明がありましたので、ぜひ留学生向けの支援としての事例もご紹介いただければ尚参考になったと感じました。
37	やや参考になった	他大学が、合理的配慮提供の体制をどのように整えているのか、どのような手続きを要するのか分かったため。
38	あまり参考にならなかった	質疑応答の時間がなく、例えば大谷大学さんであれば、障害学生支援チームに所属する（例えば）教務のスタッフが、チームと自分の上司の考えに差があった場合、板挟みになる状況が想定されるが、そのリスクにどのように対処しているのかについて質問したり、京都精華大学さんであれば、障害学生支援室が各決定権者やステークホルダー間の取次に終始しているように見えるが、障害学生支援室の権限設定に関する議論があるのかないのかを確認したりすることがないと、せっかく話題提供いただいても深まりようがない。

6. 分科会について

6-1 参加分科会（受付名簿より算出）

No	選択肢	人数	%
1	A 社会的障壁・建設的対話について	22	30.1
2	B 管理職（マネジメント）が考える社会的障壁の除去	13	17.8
3	C コーディネーターの専門性	12	16.4
4	D 精神・発達障がいのある学生への対応	13	17.8
5	E 障がいのある学生のキャリア支援	11	15.1
6	参加していない	2	2.7
	合計	73	100.0

6-1 参加分科会

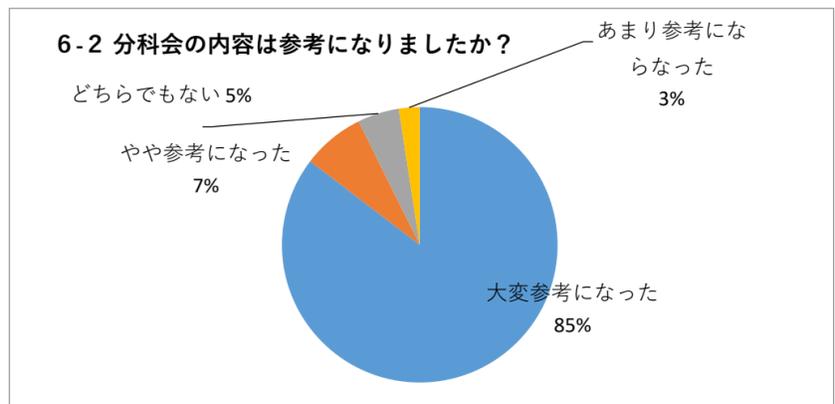


6-2 分科会の内容は参考になりましたか？

No	選択肢	人数	%
1	大変参考になった	35	85.4
2	やや参考になった	3	7.3
3	どちらでもない	2	4.9
4	あまり参考にならなかった	1	2.4
5	まったく参考にならなかった	0	0.0
合計		41	100.0

※1名分科会不参加者がアンケートに回答

※1名「全く参考にならなかった」としているが、記述内容に「参考になった」趣旨の回答をしているため、除外



※パーセントは自動調整

6-3 上記6-2の回答を選択された理由をご記入ください。

◆『A 社会的障壁・建設的対話について』（記述内容一部抜粋）

No	回答	記述
1	大変参考になった	よくある事例を改めて基本に立ち返って考えることで、日々の状学生支援を振り返る機会となったことが良かったです。
2	大変参考になった	私の勤務するキャンパスにはコーディネーター職の配置がなく、教務係事務職員が配慮申請の対応を行っている。今回、コーディネーター職の方々の業務詳細が理解できたことで、当事務室員のこれまでの対応にほぼ間違いがなかったことが理解できた。また、配慮内容の実行にあたっては、カウンセラーやコーディネーター職の方と教員の間には教務事務の職員が関係することがより効果的であることが実感として理解できたことが挙げられます。
3	大変参考になった	実際に困っている事例について、吐き出す機会があった。
4	大変参考になった	他大学の取り組みを少し知ることができて大変参考になりました。
5	大変参考になった	具体的な事例をもとに考えて懇談することで、様々な立場の参加者の方のご意見や対応例を聞き、情報交換ができたため。
6	大変参考になった	A. 社会的障壁・建設的対話について の分科会に参加しました。各事例について、各大学での取り組みやエピソードなどの意見交換が活発にできました。様々な立場での障害学生支援にかかわる取り組みが聞けて、とても勉強になりました。もっと皆さんとお話する時間が欲しい！と思うほど、あっという間に時間が過ぎてしまいました。
7	大変参考になった	分科会Aで、各大学の事情とともに、対応事例について様々な意見の出し合いにより検証できたこと、またコーディネーターの方から有効な示唆をいただいたこと。
8	大変参考になった	具体的事例を聞くことができた。似ているからといって同様に考えるのではなく、本質的にブレてはいけないところはどこかを確かめていくことが大切と感じた。
9	大変参考になった	各大学ともに同じような問題、課題で苦労していることがわかった。
10	大変参考になった	今回はじめて参加しました。いわゆる「障がい学生支援者」という括りですが、所属や役職、資格有無や資格の種類まで多種多様な人がおり、学生相談室所属かつカウンセラーというのは私だけでした。それが新鮮で知れただけでも見識が広がったような気がしました。また、私含め5名ともに支援経験が浅かったり、参加数が少なかったり、支援部署の立ち上げ期に差し掛かっている人であったりと、同じように手探りしていったことが却ってよかったです。自分が出したケースについて検討した際、本人の特性に合わせて合理的配慮が依頼、実施され、事は円滑に進んでいきました。ですが、そこで本人が得たかったものや、配慮が実施されたことで達成される本人のニーズが何なのか。個人的に疑問を抱き出したものですが、そこで社会的障壁を言葉にすること、何が障壁であり、何にアクセスするための合理的配慮だったのかということを考えました。「このケースであれば、妥当な方法として結果的に同じようにすると思う」と言葉をいただき、ある種の安堵感もありました。ですが、落としどころは見えつつも、社会的障壁は何だったのかを考えたり、振り返ったりすることが非常に重要な作業なのだと思います。あとの時間では、ケースの検討中に「そういえばうちではこんなケースが・・・」と、事例が事例を呼び、与えられたケースに関する話がなかなか進みませんでした。それだけ色々な意見が出たし、膨らんだのだと思っています。ざっくばらんにお話することができ、かつ、要所要所で寺尾先生や永井先生からの専門的知見・考え方を助言いただき、面白かったです。
11	大変参考になった	社会的障壁・建設的対話について、基本から丁寧に教えてくださり、勉強になりました。グループにわかれての懇談では、他大学の方と経験談を交えて事例についてお話しすることができ、大変参考になりました。
12	やや参考になった	着任後間もないので他大学の経験談が聞けたから
13	どちらでもない	講演については、建設的対話等について改めて整理ができたが、グループワークは目的が不明瞭で取り組みにくかった。

◆『B 管理職（マネジメント）が考える社会的障壁の除去』（記述内容一部抜粋）

No	回答	記述
1	大変参考になった	なかった知見を得ることができたため
2	大変参考になった	各大学の取り組みについて情報交換ができたので有意義な時間となりました。
3	大変参考になった	他大学の方と情報・意見交換ができたため。ただ、内容としては大変参考になりましたが、メンバー構成的に、管理職としての話題とは少し異なっている部分もありました。
4	大変参考になった	他大学の状況をお聞き出来て参考となった。
5	やや参考になった	管理職（マネジメント）の方々の集まりとのことでしたが、大学職員としての管理職だけではなく、教員や専門職（コーディネーター）の方々も含めてとは考えておらず驚きました。今回関西地域での優れた取り組みや、私とは異なる視点の方々と意見交換することができ、参考になりました。ありがとうございました。

◆『C コーディネーターの専門性』（記述内容一部抜粋）

No	回答	記述
1	大変参考になった	専門性の部分は話題が少なかったが、その他色々な話題があり、参考にはなった。
2	大変参考になった	大学規模や障がい学生支援の体制などの違いはあれど、それぞれ悩みや苦勞を抱えながら支援をされているという共通点を感じ、今まで感じていた不安が少し和らいだように思います。悩みや苦勞を一人で抱えておられる専門スタッフの方はたくさんおられると思うので、悩みを共有したうえで、他大学からのご意見をいただけるという機会は非常にありがたいと感じました。
3	大変参考になった	障害学生支援業務にかかわり始めたばかりで、所属大学のことしか分からず、このやり方でいいの不安な状況で、分科会に参加しました。その中で他大学の方も日々悩み、いろいろ試行錯誤しながら取り組んでおられることわかりました。こういう場で他大学の状況を聞きながら所属大学の取り組みについて知るきっかけになりました。
4	大変参考になった	前半、私の質問に多くの時間を割いていただき、司会・進行の先生方にはご負担をおかけしたのではないかと思います。全体をとおして丁寧にご対応くださり、ありがとうございました。他大学の取り組みとして、支援室に繋がった学生に対し、半期に一度合理的配慮の説明を求めることで理解を深めていくというお話を伺い、本学でもぜひ参考にしたいと感じました。根拠資料の取得にあたっては、地域によって医療機関の受診が難しい場合があることも伺い、地域や大学のリソースを考慮しながら柔軟な対応が求められることを改めて認識しました。今回の分科会での議論を大学にも持ち帰り、学内の支援の在り方もさらに検討していきたいと思いました。
5	大変参考になった	話題が多方面にわたり、皆様の取り組みですとか、姿勢を知ることができました。闘いという言葉も途中で使いましたが、悲壮感なく、前向きに、諦めず、信念をもってなさっている姿を垣間見ることが出来たように思います。大変、刺激になりました。
6	大変参考になった	他大学の取り組みや課題をお聞きして、新しい発見もあれば共感できることもあり、勉強になった。
7	大変参考になった	話題は多岐に渡りましたが、各大学で苦慮されているところは共通していると感じました。教員の方の参加もあり、実際に授業内で配慮している時の課題にも触れることができました。根拠資料の扱いについても、再度考える機会となりました。
8	どちらでもない	日頃からコーディネーターの専門性について考えることが多いが、専門性について、直接考えられるような材料がやや少なかったため。
9	あまり参考にならなかった	体制整備が進んでいない大学と、一定以上の進展を見ている大学とでは、話題がかなり異なるように思えた。共通項があるようでない。体制整備が一定の進展がある大学のコーディネーターとしては、よりテクニカルな話題でディスカッションして、コーディネーターに欠かせない専門性の習熟や発揮の仕方などを話し合いたかったが、兼務コーディネーターの嘆きをお聞きする時間となり（大事なこととは言え）残念だった。

◆『D 精神・発達障がいのある学生への対応』（記述内容一部抜粋）

No	回答	記述
1	大変参考になった	テーマである精神・発達障害のある学生支援では、本人の病識の乏しさや家族の誤った理解により生じる修学の困難さや周囲の学生への影響、教員の悩みなど共通の問題を共有できたため
2	大変参考になった	精神障害や発達障害のある学生が経験する修学上の困難さは合理的配慮の提供等、環境調整のみで軽減・解消されるとは言い難く、本人の病識や特性の理解、症状の安定化など個人の取り組みも必要であるとの話が聞かれた。分科会Dの参加者の多くが同様の認識を持っており、悩みを共有することができた。
3	大変参考になった	各大学での取り組みをお聞きし、それぞれにご苦勞されながら工夫されている点を伺うことができて、とてもよかったです。また認識があいまいなままになっていた点についてははっきりとしたご意見をいただき、学び直すことができて、大変勉強になりました。
4	大変参考になった	他大学が学内でどのように連携して支援を行っておられるのかがわかり、大変勉強になりました。
5	やや参考になった	本学ではまだ発生していない対応等についても知ることが出来、今後の参考となった。

◆『E 障がいのある学生のキャリア支援』（記述内容一部抜粋）

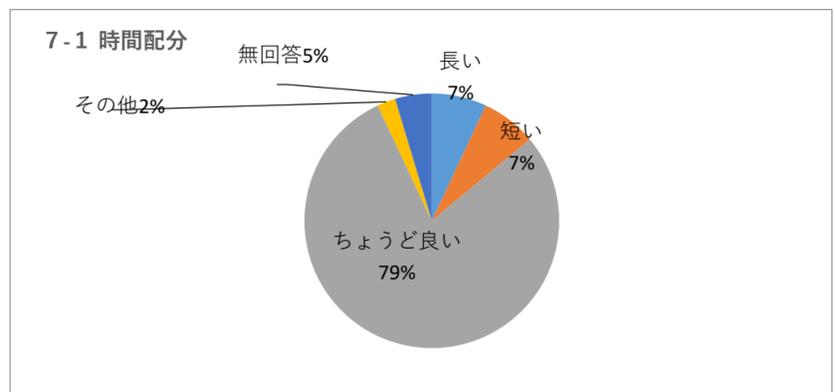
No	回答	記述
1	大変参考になった	いろいろな事例やいろいろな支援の話が聞けてとても勉強になった。
2	大変参考になった	今回のファシリテーターが村田先生でキャリア支援に関する最新情報等が聞けてよかったです。また他大学の状況も把握できてよかったです。
3	大変参考になった	各大学でのキャリア支援の方法、難しさについて、穏やかな雰囲気の中で共有できて良かったです。村田先生からのお話もとても勉強になりました。
4	大変参考になった	様々な立場の職員が参加して大変勉強になった。
5	大変参考になった	合理的配慮対象学生の成績評価（講義・演習・実習）について、各校の具体例をふまえて大学教育のあり方そのものについて考えることができたため
6	大変参考になった	立場の違う担当者と、実際の事例をざっくばらんに話し合うことによって、視野が広がりました。
7	大変参考になった	成績評価・資格取得・キャリア支援について、さまざまな役職の方からの意見をお聞きすることで、今までとは異なった視点から考えることができました。平素の支援一つひとつが学生の社会移行の準備につながるということをあらためて感じました。
8		障害学生支援者、教員、キャリア支援職員など、多様な立場の方々が構成された分科会だったため、異なる視点やアプローチを学ぶことができました。また、障害学生への支援に関して、他大学の具体的な取り組みを知る貴重な機会となり、今後の支援に活かせる学びが多くありました。

7. 懇談会全体について

7-1 時間配分

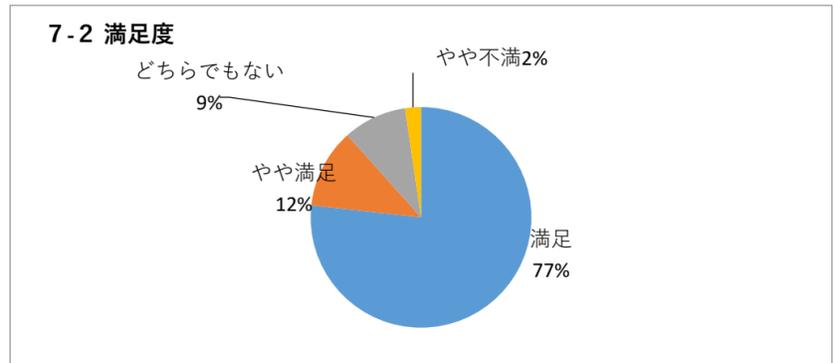
No	選択肢	人数	%
1	長い	3	7.0
2	短い	3	7.0
3	ちょうど良い	34	79.1
4	その他	1	2.3
5	無回答	2	4.7
合計		43	100.0

※その他の意見としては「休憩時間は、もう少しあると、隣の席の方とざくばらんな話ができる時間があるととっても良かったと思います。」とのこと



7-2 満足度

No	選択肢	人数	%
1	満足	33	76.7
2	やや満足	5	11.6
3	どちらでもない	4	9.3
4	やや不満	1	2.3
5	不満	0	0.0
合計		43	100.0



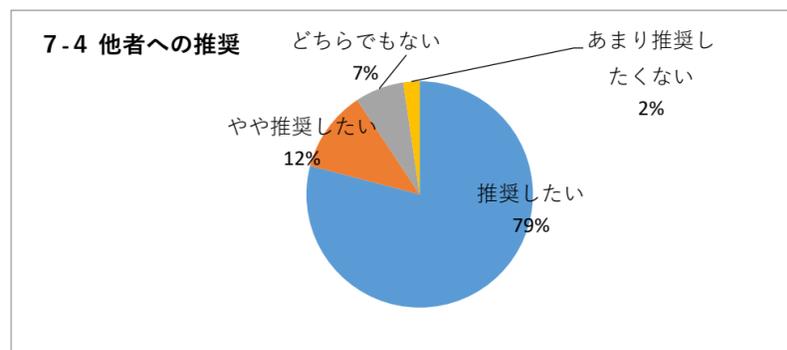
7-3 上記7-2の回答を選択された理由をご記入ください。（記述内容一部抜粋）

No	回答	記述
1	満足	うまくいっていることや対応に苦慮していることを互いに受け止め合い、助言し合える場は本当に大切だと実感しています。
2	満足	とにかく分からないことが多いためどの話題もとても参考になったためです。
3	満足	また新たな人的な広がりを得ることができた。
4	満足	会の構成や先生方のファシリテートもスマートだったので、初参加でしたがスムーズに話すことができました。また機会があれば参加したいです。
5	満足	各グループのまとめや全体のまとめを聞く中でも、気付かされることがあった。
6	満足	気負わず参加することができる。
7	満足	講演および分科会の内容が充実していたため。
8	満足	今回、さまざまな規模や支援体制を持つ大学のお話を聞き、自身の業務を振り返るとともに、本学の課題の整理にもつながりました。
9	満足	懇親会ではたくさんの方と名刺交換ができたから。
10	満足	参考になる事が多かった。今後の障害者支援の参考にしたい。
11	満足	支援を進めていく上でなかなか難しい点も多く、日々悩んでいますが、皆さんが苦慮されながらも工夫されている話をお聞きして、自分だけじゃないんだとほっとできる場であると改めて感じました。このように皆で支援についての考えを共有できる場があることがとてもありがたいです。今回持ち帰ったことを業務に生かしながら、学生にとって役立つ支援を行ってまいります。
12	満足	自分にはない視点での考え方に触れることで、新学期に向けての課題や目標設定の参考にさせていただいています。また、本学での支援と重なる部分も見られ、励みになっています。
13	満足	情報交換・ネットワーク構築の貴重な場となっております。
14	満足	新参者でも懐ふかく受け入れてくれた印象です。司会者の方、ご挨拶に立たれた方、分科会の司会と進行をになってくださった方、皆さんのあたたかい雰囲気が、すべての学生に平等に学ぶチャンスを用意する合理的配慮の姿勢を体現しているように感じました。
15	満足	専門性の高さ、教学・学生支援についての知見の共有ができるため
16	満足	全体の話題提供は勿論ですが、分科会では様々な意見交換や質疑応答を通じて、日頃の疑問点解消、また新たな課題意識や気づきがありました。学科教員が建設的対話で参加する重要性や、根拠資料をもとに困り感の裏付けを確認していくことなど、今更ですが有用な気づきがありました。改めて、準備にあられた皆様に感謝申し上げます。
17	満足	全体を通して、学び多い充実した時間を過ごせたため。
18	満足	他大学の皆さんで同じテーマについて考えることは、自身の振り返りや学びへ繋がるため、大変貴重な機会であると感じています。運営の皆様にご尽力いただき、いつもありがとうございます。
19	満足	他大学の状況をお聞き出来て参考となった。
20	満足	他大学の方と繋がりが持てたため
21	満足	他大学の方と出会って話す機会がなく、よい機会となった
22	満足	方向性を確認することができたので。
23	満足	話題提供も分科会も実践に即した内容のため、自身の考え方を見直す機会と同時に、悩みを共有する機会となったため
24	やや満足	グループの人数が多く、発現ができない方もいらっしまったのが、申し訳なく思いました。経験値の高い方々からの発言は、とても参考になりました。特に聴覚障害のある学生の頃支援について参考になりました。
25	やや満足	現在の最新の知見や、専門的な事柄に関する話を聞きたかったです。ですが、おそらく回ごとの趣旨があり、連続参加・または分科会でご紹介いただいたAHEAD JAPAN等に参加することでその点は補償されていくのだと思いました。
26	やや満足	中部圏とは少し異なり、具体的な取り組みや大学の支援内容について学ぶことができました。ありがとうございました。
27	やや満足	本学での支援体制が作られたのは本当に最近で、他大学の先生方のお話を聞き、恥ずかしながらもまだまだ勉強が足りないと感じる時も多々ありましたが、今から体制を整えるまだ柔軟性がきくこのタイミングでこの懇談会に参加させてもらい、専門的なお話を聞くことができたのは幸運だと感じました。
28	どちらでもない	この仕事をされている方の雰囲気が分かった
29	どちらでもない	各大学の事例収集をしたかったが、設置形態や規模、歴史が違いすぎて参考になる事例があまりなく、少し消化不良でした。

No	回答	記述
30	やや不満	多彩な話題が提供されることの良さと、テーマに収れんするディスカッションにならないことの深まらなさ

7-4 他者への推奨

	選択肢	人数	%
1	推奨したい	34	79.1
2	やや推奨したい	5	11.6
3	どちらでもない	3	7.0
4	あまり推奨したくない	1	2.3
5	推奨したくない	0	0.0
	合計	43	100.0



8. 今後、懇談会で取り上げてほしいテーマ、内容等があればご記入ください。（記述内容一部抜粋）

No	内容
1	サポート学生の養成について
2	ジェンダーの問題や大学のハラスメント問題も無視できないと思います。部署が違ってしまう大学が多いと思うのですが、実はつながっている問題のように思います。KSSKがどのように受け止め、考えるか、ぜひ、聞いてみたいです。
3	学習障害のある学生への支援について
4	義務化後の対応に関する課題（オンライン学修への取組）など
5	教職員向けの研修やガイドなどの作成について、情報交換ができればと思います。
6	建設的な対話について。私の考える建設的対話と他の人の考える建設的対話が異なるような気がするときがあります……。しかし大学では往々にして建設的な対話より他のことが優先される傾向があるように思い、日々難しさを感じます。
7	合理的配慮を受けた学生は、それをしてどう学びやすくなったのか。
8	困り感の薄い、あるいは配慮申請を必要と考えない発達障害の学生や、連絡がつきづらくなったり欠席してしまったり、登校自体がままならない精神疾患の学生の対応
9	支援で利用できる機器やソフト、アプリなどの紹介やデモンストレーション。各大学間での共有の可能性など(ex.導入は高価だが、年度によっては使わないこともある点字プリンタなどをもっと共有化できないか?)。
10	障害学生の就労支援について
11	障害学生支援に携わるスタッフの専門性については、引き続き議論、意見交換できるとありがたいです。この業界のスタッフは、現状では有期雇用の方が多く、A大学で努めて期間満了になったあと、B大学に行くというパターンは少なからずあると思います。その際に、A大学で専門性を意識して働けると、B大学に移ったときに、スムーズに働けるのではないかと、思います。また、スタッフを新規募集（採用）する際にも、業務の本質が何か、ということ募集要項等を書くことによって、雇用する側、雇用される側ともによりマッチングになるのではないかと考えております。
12	人生のキャリア形成の大学生活の位置づけ
13	精神・発達障害の学生への支援、小規模大学におけるアプローチ
14	精神障害の学生さんへの支援について
15	大学生の学習支援
16	大学内での障がい理解が進んでいる大学様がおられれば、なぜ教職員の理解がなされるような環境を作ることができたのかについて教えていただきたいです。
17	福祉や当事者会、親の会などとの学外連携

9. 懇談会の改善点があればご記入ください。（記述内容一部抜粋）

No	内容
1	時間の制約があろうかと思いますが、話題提供の際にも質疑応答の時間があるとよいかもしれません。
2	初めて参加しましたが、なかなか最初は雰囲気かわからず話しづらかったです。
3	前半の話題提供などはもう少し時間をかけてもよいのでは？
4	全体会では質疑応答の時間を30分は確保するようにしていただきたい。分科会では基礎的な体制整備の進展がない大学と進展がある大学と分けた分科会もあった方がよいのではないかと愚考いたします。分科会のサイズも6~8名程度であればディスカッションが拡散することを防げると思います。
5	分科会で話し合いに入る前の説明がわかりづらかった

10. その他、懇談会へのご意見・要望等があればご記入ください。（記述内容一部抜粋）

No	内容
1	毎回、近い将来、大学障害支援職員をめざし希望しているものとして、助走としてカウンセラー・研究所・協会・アカデミーの立場で参加させて頂き、大変恐縮しております。誠にありがとうございます。かなり自分自身は参加してはいけないと感じながらそっと参加させて頂きありがとうございます。地域包括ケアシステムとして、バイオ、サイコ、ソーシャルモデルで言えば、今後この障害学生支援で、学生と家族等から訴えられることも考えられるので、大学運営危機管理の点で弁護士の観点からみた学校を守る防衛的な視点と学校運営から若手だけでない学生の入学などを視野に入れた対応策なども、平等の観点から必要ではないかと思いました。講演だけでも参加させていただき場合もお願いしたいです。早く大学支援職員になりたい。お世話になりました
2	いつも貴重な機会をいただき感謝しています。ご準備いただいた皆さん、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。
3	いつも合理的配慮の提供についてお骨折りくださり誠にありがとうございます。今回も安心して参加できました。
4	ご企画と運営をありがとうございました。今回は学内で案内が回ってきたのをいいことに、信州から参加しましたが、関西の大学の姿勢が進んでいて驚きましたし、地域を限らず、参加させていただきました。次年度は、関係部署のカウンセラーにも声をかけてみたいと思います。今後も、地域に関わらず、参加を受け入れていただけますと有難く存じます。
5	貴重な機会をご準備くださりありがとうございました。
6	教務系、キャリア系の教職員の参加が増えるとより有意義になると思います。
7	個人的には、懇親会がもう少し早い時間だと参加しやすいです。

No	内容
8	懇親会は、参加するか迷いましたが参加させていただいて良かったです。座長土橋様からの「誰も一人にはしない」の初めの一言で、安心して楽しめました。ありがとうございます。
9	いつも素晴らしい企画をありがとうございます。
10	非常に刺激的な情報交流の場です。今後ともよろしく願いいたします。